

## 1996年度の「社会情報調査の方法に関する研究会」について

井上 芳保

1996年度の「社会情報調査の方法に関する研究会」の第7回が11月7日、広島修道大学教授の巨明志さんをお招きして開催された。これまでこの研究会は土曜日の午後で開催されてきたが、今回は社会情報学部の月例研究会（社会情報学部談話会）の第33回という場を使わせていただいたので学部のスタッフの多くが参加することが出来た。またウィークデイの開催であったにもかかわらず、いつものように学外からの参加者もつめかけた。今回ここに掲載するのはその記録である。報告部分のテープ起こし原稿を巨さんに送り、眼を通して加筆修正していただいたものである。論旨を明確にするためにかなり削った部分もあるようである。1～12という章立ては私が後で行った。

冒頭に説明があるが、今回の報告は『講座現代社会学第22巻：メディアと情報化の社会学』【岩波書店】所収の「メディアと権力」論文の内容に基づいている。資料として末尾に添付した当日配付のレジメを参照しながら読んでいただきたい。巨報告の内容については、本誌掲載の拙稿「架空サマリートーク」の中でいくつかの論点を取り上げ、コメントしてある。また以下に、今回の報告に特に関連の深い巨さんの業績を掲載しておいた。いずれも必要に応じて参照していただきたい。

ごらんのように今回の巨報告は、ゴッフマン、タックマン、レヴィ＝ストロース、フーコー、アンダーソン、ボードリヤールら社会学理論の最先端といえる業績の数々に言及したたいへんハイレベルの内容となっている。お忙しい中、はるばる北海道まで足を運んで下さった巨さんには、この場を借りて改めて感謝の意を表したい。

ところで、この「社会情報調査の方法に関する研究会」は道外から講師を招いての研究会を年間二回予定しており、年度内にもう一回開催することになっている。その報告者については現在、打診中である。実施が遅くなった都合からその記録を今回、掲載できなくなったのは残念である。それについては来年度の紀要に譲りたい。

なお、今回のテープ起こし作業は、私のゼミの3年生の田口浩二君が担当してくれた。労をねぎらいたい。

### 《参考文献》

- 巨 明志 (1996) 「権力の記述と文体」講座現代社会学 16巻『権力と支配の社会学』岩波書店所収
- (1996) 「メディアと身体」講座現代社会学 4巻『身体と間身体の社会学』岩波書店所収
- (1996) 「メディアと権力」講座現代社会学 22巻『メディアと情報化の社会学』岩波書店所収
- (1994) 『社会啓発再考——広島県北部社会意識調査報告書』広島県北部社会意識調査実行委員会編

## 共著

- (1991)「身体とメディア — 身体のパラドックスをめぐって」『ソシオロジ』36巻1号所収
- (1990)「映像化社会についての考察 — 「オリジナル/コピー」論再考」『広島修道大論集 人文編』30巻2号所収
- (1986)『記号論と社会学 — 記号論の彼方/外部としての権力』広島修道大学総合研究所
- (1985)「文字と権力 — レヴィ=ストロースの仮説をめぐって」『広島修道大論集 人文編』26巻1号所収
- (1984)「メディアと個的空間」『現代の理論』199号現代の理論社所収
- (1982)「権力のシュミレーション — ボードリヤールのフーコー批判をめぐって」『広島修道大論集 人文編』23巻2号所収
- (1981)「消費社会のレトリック — 広告の言語行為と記号の消費」『思想』682号岩波書店所収
- (1980)「M. フーコーの権力分析と社会学的課題」『社会学評論』31巻1号所収